

令和7年度使用中学校教科用図書の採択に向けての 進捗状況について

【資料一覧】

- | | |
|-----|-------------------------------|
| 資料1 | 令和7年度使用教科用図書の採択について |
| 資料2 | 令和7年度使用義務教育諸学校教科用図書採択基準及び選定資料 |
| 資料3 | 発行者別概要説明書 |

令和7年度使用教科用図書の採択について

学校教育課

本市は、文部科学省及び福岡県教育委員会より示される採択方針や採択の手續きに則り、厳正に採択を行っていく。本年度は、以下の3つの令和7年度使用教科用図書の採択を行う。

中学校教科用図書

- ・ 4年ごとに教科用図書の採択を行う。
- ・ 現在使用しているものは、令和2年度に採択されたものであり、今年度が教科用図書の採択替えの年にあたる。

特別支援学校・学級附則9条本(一般図書)

- ・ 特別支援学校並びに特別支援学級においては、文部科学省検定済教科書等の使用について、学校教育法附則第9条により、児童用図書(絵本や図鑑)などの一般図書の一覧の中から、毎年本市の学校の実情に応じた図書を採択することが認められている。

高等学校教科用図書

- ・ 高等学校の教科用図書の採択方法については法令上、具体的な定めはないが、北九州市立高等学校については、学校の調査研究を基に、本市教育委員会が採択を行う。今年度は、教育課程の変更及び教科用図書の廃版等にもない採択を行う。

※ 小学校教科用図書

- ・ 4年ごとに教科用図書の採択を行う。
- ・ 現在使用しているものは、令和5年度に採択されたものである。

令和7年度使用義務教育諸学校
教科用図書採択基準及び選定資料

福岡県教育委員会

令和7年度使用義務教育諸学校

教科用図書の採択基準

令和7年度使用教科用図書の採択は、文部科学大臣の作成する教科書目録に記載された教科用図書等の中から下記の基準に基づいて行うものとする。

また、採択に当たっては、別に定める「令和7年度使用中学校教科用図書選定資料」及び「学校教育法附則第9条に規定する教科用図書選定資料」等を基に十分な調査研究を行うとともに、義務教育諸学校教科用図書検定基準（平成29年文部科学省告示第105号）の趣旨にも留意して、公正かつ適正な採択を期するものとする。

記

- 1 教育基本法（平成18年法律第120号）に定める教育の目的及び目標並びに学校教育法（昭和22年法律第26号）に定める義務教育の目標及び学校の目的を有効かつ適切に踏まえたもの
- 2 学習指導要領の定める目標及び内容に即し、適切に教材を構成したもの
- 3 地域の実態を考慮し、児童生徒の発達の段階に即し、かつ、指導に際して適切なもの

令和7年度使用
中学校教科用図書選定資料

1 教科用図書選定に当たっての調査研究の全体的観点

教科用図書は、「教育課程の構成に応じて組織排列された教科の主たる教材」として、学校において使用しなければならないものである。

また、学校の教育課程は、学習指導要領を基準とすることとされている。

したがって、教科用図書の選定に当たっては、学習指導要領のねらいを踏まえて行うことを基本方針とする。

(1) 学習指導要領の基本的なねらい

教育基本法及び学校教育法の規定に則り、中学校学習指導要領(平成29年文部科学省告示第64号)は、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を通して、創意工夫を生かした教育活動の中で、生徒に生きる力を育むことを目指し、次の3点を基本的なねらいとしている。

ア 基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得させ、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力等を育むとともに、主体的に学習に取り組む態度を養い、個性を生かし多様な人々との協働を促す教育の充実に努めること。

イ 道徳教育や体験活動、多様な表現や鑑賞の活動等を通して、豊かな心や創造性の涵養を目指した教育の充実に努めること。

ウ 学校における体育・健康に関する指導を、生徒の発達段階を考慮して、学校の教育活動全体を通じて適切に行うことにより、健康で安全な生活と豊かなスポーツライフの実現を目指した教育の充実に努めること。

(2) 選定の基本的観点

ア 各教科等の特質に応じた見方・考え方を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解すること、情報を精査して考えを形成すること、問題を見いだして解決策を考えること、思いや考えを基に創造することができるように配慮されていること。

イ 基礎的・基本的な内容の確実な定着を図るとともに、これらを活用して課題を解決することができるように配慮されていること。

ウ 自らの力で論理的に考え判断する力、自分の思いや考えを的確に表現する力、問題を発見し解決する力を育成し、創造性の基礎を培うことができる学習がなされるように配慮されていること。

エ 生徒が知的好奇心・探究心をもって、自ら学ぶ意欲や主体的に学ぶ態度が身に付くように配慮されていること。

オ 我が国や郷土の歴史や文化・伝統に対する理解を深め、これらを愛する心を育成するとともに、広い視野を持って異文化を理解し国際協調の精神を培うように配慮されていること。

カ 他人を思いやる心、自他の生命や人権を尊重する心、美しいものに感動する心、自然を愛する心などが育つ学習がなされるように配慮されていること。

2 教科共通の選定の観点

(1) 内容の範囲及び程度

ア 教科の目標達成に結びつく内容になっていること。

イ 内容の程度は、その学年の生徒の発達の段階に適應していること。

ウ 学習指導要領に示す教科及び学年、分野の目標に従い、学習指導要領に示す学年、領域又は分野の内容及び内容の取扱いに示す事項を不足なく取り上げていること。

(2) 内容に関する配慮事項

ア 各教科等及び各学年相互間の関連を図り、系統的・発展的な指導ができるように配慮されていること。

イ 言語に関する能力の育成を図る上で必要な言語活動の充実について配慮されていること。

ウ 体験的な学習や基礎的・基本的な知識及び技能を活用した問題解決的な学習が重視されているとともに、生徒の興味・関心を生かし、自主的・自発的な学習が促されるように配慮されていること。

エ 生徒が学習内容を確実に身に付けることができるよう、個に応じた指導への配慮がされていること。

オ 体験活動、実験・実習などは、安全・衛生面が配慮されていること。

カ 学習指導要領に示す内容及び内容の取扱いに示す事項を超えた事項(以下「発展的な学習内容」という。)を取り上げている場合には、学習指導要領の目標や内容の趣旨を逸脱したり、生徒の負担が過重となったりすることがないように配慮されていること。

(3) 分量

- ア 全体の分量は、授業時数から見て適切であること。
- イ 学習指導要領の内容及び内容の取扱いに示す事項が、授業時数に照らして図書の内容に適切に配分されていること。
- ウ 各領域及び分野の内容に偏りがなく調和がとれていること。

(4) 使用上の便宜

- ア 本文、問題、説明文、注、資料、作品、挿絵、写真、図などは、学習を進める上で、関連を持たせて用意され、学習の深まりに有効に働くよう配置されていること。
- イ 発展的な学習内容を取り上げる場合には、それ以外の内容と区別され、発展的な学習内容であることが明示されていること。

(5) 印刷、製本等

- 印刷は鮮明であり、文字の大きさ、字体、行間及び製本の様式、材料などが適切であること。

3 選定の観点

- 選定に当たっての基本的な観点は、以下に示すとおりとする。
- なお、文中〔 〕で示した語句は、学習指導要領で使用されている項目である。

<国語（「書写」を除く。）>

観	点
1	<p>国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力を育成できる内容になっていること。</p> <p>2 社会生活に必要な国語の特質について理解し、それを適切に使うことができる内容になっていること。</p> <p>3 社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を養うことができる内容になっていること。</p> <p>4 言葉がもつ価値を認識するとともに、言語感覚を豊かにし、我が国の言語文化に関わり、国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養うことができる内容になっていること。</p> <p>5 教科及び各学年の目標、〔知識及び技能〕及び〔思考力、判断力、表現力等〕に示す資質・能力を偏りなく養うことや読書に親しむ態度の育成をねらいとし、生徒の発達の段階に即して適切な話題や題材、話や文章の種類などを調和的に取り扱うこと。特に、〔思考力、判断力、表現力等〕においては、各領域の指導が適切に行われるよう、年間を通してバランスよく指導することができる内容になっていること。</p> <p>6 「A 話すこと・聞くこと」については、学習過程や指導事項、例示されている言語活動を参考にして、目的や場面に応じて話題を決め、話したり聞いたり話し合ったりするための材料を収集・整理して伝え合う内容を検討したり、聞き手に分かりやすく伝わるように表現を工夫して話したり、話の展開に注意しながら内容を聞き取って自分の考えを形成したり、話合いを効果的に進め、互いの発言を踏まえて考えをまとめたり広げたり深めたりすることのできる言語能力を育成することができる内容になっていること。</p> <p>7 「B 書くこと」については、学習過程や指導事項、例示されている言語活動を参考にして、目的や意図に応じて題材を決め、情報を収集・整理し、伝えたいことを明確にしたり、文章の構成を検討したり、記述の仕方を工夫して自分の考えが伝わる文章にしたり、書いた文章について捉え直して分かりやすい文章に整えたり、自分が書いた文章のよい点や改善点を見いだしたりすることのできる言語能力を育成することができる内容になっていること。</p> <p>8 「C 読むこと」については、学習過程や指導事項、例示されている言語活動を参考にして、叙述に基づいて文章の構造や内容を把握したり、構成や叙述などに基づいて文章の内容や形式に着目して読み、目的に応じて意味付けたり考えたり、文章を読んで理解したことなどに基づいて自分の考えを形成したりする言語能力を育成することができる内容になっていること。</p> <p>9 「読書」及び「C 読むこと」については、生徒の読書意欲を高め、様々な文章を読んで自分の表現に役立てられるものであるとともに、他教科等における読書の指導や学校図書館における指導、全校一斉の読書活動などとを関連付けることができる内容になっていること。</p>

<国語（「書写」を除く。）>

観	点
	<p>10 [知識及び技能]に示す事項は、[思考力、判断力、表現力等]に示す事項の指導を通して指導することを基本とし、必要に応じて特定の事項を取り上げて繰り返し指導したり、まとめて単元化したりして取り扱うことができる内容になっていること。</p> <p>11 [思考力、判断力、表現力等]の「C 読むこと」の教材については、説明的な文章や文学的な文章などの文章の種類を調和的に取り扱っていること。</p> <p>12 我が国の言語文化に関する事項については、各学年で古典に親しむことができる内容になっていること。</p>

<国語（「書写」）>

観	点
	<ol style="list-style-type: none">1 各教科等の学習活動や日常生活に生かすことのできる書写の能力を育成することができる内容になっていること。2 文字を正しく整えて速く書くことができるとともに、書写の能力を学習や生活に役立てる態度を育てることができる内容になっていること。3 各学年で、硬筆及び毛筆を使用する書写の指導を行うことができる内容になっていること。4 毛筆を使用する書写においては、硬筆による書写の能力の基礎を養うことができる内容になっていること。

<社会（「地図」を除く。）>

観	点
<p>(共通)</p> <ol style="list-style-type: none">1 社会的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和的で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を育成することができる内容になっていること。2 我が国の国土と歴史、現代の政治、経済、国際関係等に関して理解するとともに、調査や諸資料から様々な情報を効果的に調べまとめる技能を育成することができる内容になっていること。3 社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連を多面的・多角的に考察し、社会に見られる課題の解決に向けて選択・判断する力、思考・判断したことを説明し、議論する力を養うことができる内容になっていること。4 社会的事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、我が国の国土や歴史に対する愛情、国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、他国の文化を尊重することの大切さについての自覚を深めることができる内容になっていること。5 小学校社会科の内容との関連及び各分野相互の有機的な関連を図るとともに、地理的分野及び歴史的分野の基礎の上に公民的分野の学習を展開できる内容になっていること。	
<p>[地理的分野]</p> <ol style="list-style-type: none">1 地理的な見方・考え方を働かせ、課題を追究、解決する活動を通して、以下の(1)～(3)の資質・能力を育成することができる内容になっていること。<ol style="list-style-type: none">(1) 我が国の国土及び世界の諸地域に関して、地域の諸事象や地域的特色を理解するとともに、地理に関する情報を調べまとめる地理的技能を身に付けるようにする。(2) 地理に関わる事象について、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係などに着目して、多面的・多角的に考察し、地理的課題の解決に向けて公正に選択・判断する力、思考・判断したことを説明し、議論する力を養う。(3) 日本や世界の地域に関わる諸事象について、課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重することの大切さについての自覚を深める。	

<社会（「地図」を除く。）>

観	点
	<p>2 日本の諸地域の学習においては、学習する地域ごとに①自然環境を中核とした考察の仕方、②人口や都市・村落を中核とした考察の仕方、③産業を中核とした考察の仕方、④交通や通信を中核とした考察の仕方、⑤その他の事象を中核とした考察の仕方の一つを選択し、少なくとも一度は取り扱うことができる内容になっていること。</p> <p>[歴史的分野]</p> <p>1 歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究、解決する活動を通して、以下の（１）～（３）の資質・能力を育成することができる内容になっていること。</p> <p>（１）我が国の歴史の大きな流れを、世界の歴史を背景に、各時代の特色を踏まえて理解するとともに、歴史に関する情報を調べまとめる技能を身に付けるようにする。</p> <p>（２）歴史に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、推移、現在とのつながりなどに着目して多面的・多角的に考察し、歴史に見られる課題を把握し複数の立場や意見を踏まえて公正に選択・判断する力、思考・判断したことを説明し、議論する力を養う。</p> <p>（３）歴史に関わる諸事象について、課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、国家及び社会並びに文化の発展や人々の生活の向上に尽くした歴史上の人物と現在に伝わる文化遺産を尊重しようとする大切さについての自覚を深め、国際協調の精神を養う。</p> <p>2 各時代の特色や時代の転換に関係する基礎的・基本的な歴史に関わる事象を重点的に選んで指導内容が構成されていること。また、各時代の文化については、代表的な事例を取り上げてその特色を考察させることができる内容になっていること。</p> <p>[公民的分野]</p> <p>1 現代社会の見方・考え方を働かせ、課題を追究、解決する活動を通して、以下の（１）～（３）の資質・能力を育成することができる内容になっていること。</p> <p>（１）自由・権利と責任・義務との関係を広い視野から正しく認識し、民主政治の意義、国民の生活の向上と経済活動との関わり、国際関係などについて個人と社会との関わりを中心に理解を深めるとともに、現代の社会的事象に関する情報を効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。</p> <p>（２）社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連を社会生活と関連付けて多面的・多角的に考察し、現代社会に見られる課題について公正に判断する力、思考・判断したことを説明し、議論する力を養う。</p> <p>（３）現代の社会的事象について、現代社会に見られる課題の解決を視野に主体的に社会に関わろうとする態度を養うとともに、各国が相互に主権を尊重し、国民が協力し合うことの大切さについての自覚を深める。</p>

<社会（「地図」）>

観	点
1	地図の読図や作図、景観写真の読み取りなど地理的技能を身に付けることができる内容になっていること。
2	世界の諸地域については、各州の自然、産業、生活・文化、歴史的背景などから地域的特色を大観できる内容になっていること。
3	自然環境、人口、資源・エネルギーと産業の地域間の結び付きについて、地図を活用し、日本全体としての地域的特色が大観できる内容になっていること。
4	国旗の意義を理解し、国旗を相互に尊重することが国際的な儀礼であることを理解し、それを尊重する態度を養うことができる内容になっていること。
5	資料などは最新のものであり、適切に出所、出典が明示された内容になっていること。

<数学>

観	点
<p>1 数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数量や図形などについての基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得し、これらを活用して問題を解決するために必要な数学的な思考力、判断力、表現力等を育むとともに、数学のよさを知り、数学を生活や学習に生かそうとしたり、問題解決の過程を評価・改善したりしようとするなど、数学的に考える資質・能力を育成することができる内容になっていること。</p>	
<p>2 [A 数と式]、[B 図形]、[C 関数]、[D データの活用]の4つの領域の内容になっていること。その際、[数学的活動]を通して指導することができる内容になっていること。</p>	
<p>3 [A 数と式]の領域では、以下の(1)～(7)の事項を重視する内容になっていること。</p> <ul style="list-style-type: none">(1) 数の範囲の拡張と数の概念を理解すること(2) 新しく導入された数の四則計算の意味を理解し、それらの数を用いて表したり処理したりすること(3) 文字のもつ意味、特に変数の意味を理解すること(4) 文字を用いた式に表現したり、文字を用いた式の意味を読み取ったりすること(5) 文字を用いた式の計算や処理をすること(6) 既に学習した計算の方法と関連付けて、文字を用いた式の計算の方法を考察し表現すること(7) 文字を用いた式を具体的な場面で活用すること	
<p>4 [B 図形]の領域では、以下の(1)～(4)の事項を重視する内容になっていること。</p> <ul style="list-style-type: none">(1) 基本的な図形の概念、図形の性質や関係を理解すること(2) 図に表したり、正しく作図したりすること(3) 図形を直観的に捉えること(4) 数学的な推論に基づいて考察し表現すること	
<p>5 [C 関数]の領域では、以下の(1)～(4)の事項を重視する内容になっていること。</p> <ul style="list-style-type: none">(1) 関数についての基礎的な概念や性質を理解すること(2) 表、式、グラフを用いて関数の特徴を表現すること(3) 関数として捉えられる二つの数量について、変化や対応の特徴を見だし、表、式、グラフを相互に関連付けて考察し表現すること(4) 関数を用いて事象を捉え考察し表現すること	
<p>6 [D データの活用]の領域では、以下の(1)～(4)の事項を重視する内容になっていること。</p> <ul style="list-style-type: none">(1) データの分布と確率についての基礎的な概念や性質を理解すること(2) データを収集して分析したり、確率を求めたりできるようにすること	

<数学>

観	点
	<p>(3) データの分析や母集団の傾向に着目して、その傾向を読み取り批判的に考察し判断すること</p> <p>(4) 不確定な事象の起こりやすさについて考察し表現すること</p> <p>7 [数学的活動]では、以下の(1)～(3)の事項を重視する内容になっていること。</p> <p>(1) 日常の事象や社会の事象から問題を見だし解決する活動</p> <p>(2) 数学の事象から問題を見だし解決する活動</p> <p>(3) 数学的な表現を用いて説明し伝え合う活動</p> <p>8 思考力、判断力、表現力等を育成するため、各学年の内容の指導に当たっては、数学的な表現を用いて簡潔・明瞭・的確に表現したり、互いに自分の考えを表現し伝え合ったりするなどの機会を設けることができる内容になっていること。</p> <p>9 そろばんや電卓、コンピュータ、情報通信ネットワークなどの情報手段を適切に活用し、学習の効果を高めることができる内容になっていること。</p> <p>10 具体物を操作して考えたり、データを収集して整理したりするなどの具体的な体験を伴う学習を充実することができる内容になっていること。</p> <p>11 [用語・記号]は、各学年の内容と密接に関連させて取り上げた内容になっていること。</p>

<理科>

観	点
	<ol style="list-style-type: none">1 自然の事物・現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、自然の事物・現象を科学的に探究することができる内容になっていること。2 自然の事物・現象についての理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を養うことができる内容になっていること。3 観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養うことができる内容になっていること。4 自然の事物・現象に進んで関わり、科学的に探究しようとする態度を養うことができる内容になっていること。5 [第1分野]については、物質やエネルギーに関する事物・現象を科学的に探究するために、必要な資質・能力を以下の(1)～(3)のとおり育成することができる内容になっていること。<ol style="list-style-type: none">(1) 物質やエネルギーに関する事物・現象についての観察、実験などを行い、身近な物理現象、電流とその利用、運動とエネルギー、身の回りの物質、化学変化と原子・分子、化学変化とイオンなどについて理解するとともに、科学技術の発展と人間生活との関わりについて認識を深めるようにする。また、それらを科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。(2) 物質やエネルギーに関する事物・現象に関わり、それらの中に問題を見だし見通しをもって観察、実験などを行い、その結果を分析して解釈し表現するなど、科学的に探究する活動を通して、規則性を見いだしたり課題を解決したりする力を養う。(3) 物質やエネルギーに関する事物・現象に進んで関わり、科学的に探究しようとする態度を養うとともに、自然を総合的に見るようにする。6 [第2分野]については、生命や地球に関する事物・現象を科学的に探究するために、必要な資質・能力を以下の(1)～(3)のとおり育成することができる内容になっていること。<ol style="list-style-type: none">(1) 生命や地球に関する事物・現象についての観察、実験などを行い、生物の体のつくりと働き、生命の連続性、大地の成り立ちと変化、気象とその変化、地球と宇宙などについて理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。(2) 生命や地球に関する事物・現象に関わり、それらの中に問題を見だし見通しをもって観察、実験などを行い、その結果を分析して解釈し表現するなど、科学的に探究する活動を通して、多様性に気付くとともに規則性を見いだしたり課題を解決したりする力を養う。(3) 生命や地球に関する事物・現象に進んで関わり、科学的に探究しようとする態度と、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を養うとともに、自然を総合的に見るようにする。

<理科>

観	点
7	各分野間及び各項目間の関連が十分考慮され、各分野の特徴的な見方・考え方を総合的に働かせ、自然の事物・現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を養うことができる内容になっていること。
8	観察、実験、野外観察が重視され、自然の事物・現象についての基本的な概念の形成及び科学的に探究する力と態度の育成が段階的に無理なく行うことができる内容になっていること。
9	生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を養うことができる内容になっていること。
10	観察、実験の過程での情報の検索、実験、データの処理、実験の計測などにおいて、コンピュータや情報通信ネットワークなどを積極的かつ適切に活用することができる内容になっていること。
11	原理や法則の理解を深めるためのものづくりや、継続的な観察や季節を変えての定点観測が、各内容の特質に応じて適宜行われる内容になっていること。また、博物館や科学学習センターなどとの連携、協力を図ることができる内容になっていること。
12	科学技術が日常生活や社会を豊かにしていることや安全性の向上に役立っていること、理科で学習することが様々な職業などに関係していることに触れることができる内容になっていること。
13	観察、実験、野外観察における事故の防止及び、使用薬品の管理や廃棄について十分配慮された内容になっていること。

<音楽>

観	点
1	表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と豊かに関わるができる内容になっていること。
2	曲想と音楽の構造や背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けることができる内容になっていること。
3	音楽表現を創意工夫することや、音楽のよさや美しさを味わって聴くことができる内容になっていること。
4	音楽活動の楽しさを体験することを通して、音楽を愛好する心情を育むとともに、音楽に対する感性を豊かにし、音楽に親しんでいく態度を養い、豊かな情操を培うことができる内容になっていること。
5	〔共通事項〕を要として各領域や分野の関連を図ることができる内容になっていること。
6	音楽活動を通して、それぞれの教材等に応じ、音や音楽が生活に果たす役割を考えさせるなどして、生徒が音や音楽と生活や社会との関わりを実感することができる内容になっていること。
7	表現及び鑑賞の各活動において、音や音楽及び言葉によるコミュニケーションを図り、音楽科の特質に応じた言語活動を適切に位置付けることができる内容になっていること。
8	歌唱及び器楽の活動において、生徒が我が国や郷土の伝統音楽のよさを味わい、愛着をもつことができるような内容になっていること。
9	創作の活動において、理論に偏ることなく、即興的に音を出しながら音のつながり方を試すなど、音を音楽へと構成していく体験ができる内容になっていること。
10	鑑賞の活動において、我が国や郷土の伝統音楽を含む我が国及び諸外国の様々な音楽のうち、指導のねらいに照らして適切な教材（楽曲）を選択することができる内容になっていること。

<美術>

観	点
1	表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の美術や美術文化と豊かに関わることができる内容になっていること。
2	対象や事象を捉える造形的な視点について理解するとともに、表現方法を創意工夫し、創造的に表すことができる内容になっていること。
3	造形的なよさや美しさ、表現の意図と工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生み出し豊かに発想し構想を練ったり、美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるような内容になっていること。
4	美術の創造活動の喜びを味わい、美術を愛好する心情を育み、感性を豊かにし、心豊かな生活を創造していく態度を養い、豊かな情操を培うことができる内容になっていること。
5	「思考力、判断力、表現力等」を高めるために、言語活動の充実を図ることができる内容になっていること。
6	生徒の主体的・対話的で深い学びの実現のために、造形的な見方・考え方を働かせ、表現及び鑑賞に関する資質・能力を相互に関連させた学習の充実を図ることができる内容になっていること。
7	「A 表現」の活動においては、発想や構想に関する資質・能力を育成する全ての事項に「主題を生み出すこと」が位置付けられた内容になっていること。
8	「B 鑑賞」の指導については、各学年とも、各事項において育成を目指す資質・能力の定着が図られるよう、適切かつ十分な授業時数を確保することができる内容になっていること。
9	〔共通事項〕の指導に当たっては、表現や鑑賞の学習に必要な資質・能力を育成する観点から、生徒が多様な視点から造形を豊かに捉え実感を伴いながら理解することができる内容になっていること。
10	事故防止のため、特に、刃物類、塗料、器具などの使い方の指導と保管、活動場所における安全指導などの徹底が図ることができる内容になっていること。

<保健体育>

観	点
<p>[体育分野「体育理論」]</p> <ol style="list-style-type: none">1 基礎的な知識の確実な定着を図ることができるように、各領域に共通する内容や、まとまりで学習することが効果的な内容になっており、高等学校への接続を考慮した単元構成となっていること。2 「運動やスポーツの多様性」、「運動やスポーツの意義や効果と学び方や安全な行い方」、「文化としてのスポーツの意義」の3つの内容で構成されていること。 <p>[保健分野]</p> <ol style="list-style-type: none">1 「健康な生活と疾病の予防」、「心身の機能の発達と心の健康」、「傷害の防止」及び「健康と環境」の4つの内容で構成されていること。2 個人生活における健康に関する課題を解決することを重視する観点から、自他の健康に関する課題を発見し、よりよい解決に向けて取り組む思考力、判断力、表現力等を育成することができる内容になっていること。3 小学校及び高等学校の内容を踏まえた系統性のある指導ができる内容になっていること。4 ストレスへの対処、応急手当の技能に関する内容が示されていること。5 体育分野と保健分野の関連を図ることはもとより、関連する教科や道徳科、特別活動のほか、総合的な学習の時間、運動部の活動などとの関連を図り、日常生活における体育・健康に関する活動が適切かつ継続的に実践することができる内容になっていること。6 自他の健康に関心をもてるようにし、健康に関する課題を解決する学習活動を取り入れるなどの指導方法の工夫を行うことができる内容になっていること。	

<技術・家庭>

観	点
<p>(共通)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 実習等の結果を整理し考察する学習活動や、生活や社会における課題を解決するために言葉や図表、概念などを用いて考えたり、説明したりするなどの学習活動の充実を図ることができる内容になっていること。 2 基礎的・基本的な知識及び技能を習得し、基本的な概念などの理解を深めるとともに、仕事の楽しさや完成の喜びを体得させるよう、実践的・体験的な活動の充実を図ることができる内容になっていること。また、学習内容と将来の職業の選択や生き方との関わりについて扱っていること。 3 生活や社会の中から問題を見いだして課題を設定し解決する学習活動の充実とともに、家庭や地域社会、企業などとの連携を図るよう配慮した内容になっていること。 4 実習にあたっては、火気、用具、材料などの取扱いに注意した事故防止及び安全と衛生に十分留意した内容になっていること。 5 授業時数については、いずれかの分野に偏ることのなく配当されていること。 	
<p>[技術分野]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 [A 材料と加工の技術]、[B 生物育成の技術]、[C エネルギー変換の技術]、[D 情報の技術]については、それぞれに関する基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付け、技術と生活や社会、環境との関わりについて理解を深めることができる内容になっていること。 2 生活や社会の中から技術に関わる問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、制作図等に表現し、試作等を通じて具体化し、実践を評価・改善するなど、課題を解決する力を養うことができる内容になっていること。 3 よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、適切かつ誠実に技術を工夫し創造しようとする実践的な態度(安心、安全で便利な生活の実現や持続可能な社会の構築のために、主体的に技術に関わり、技術を工夫し創造しようとする実践的な態度)を養うことができる内容になっていること。 	
<p>[家庭分野]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 [A 家族・家庭生活]においては、幼児との触れ合い体験などを一層重視するとともに、高齢者など地域の人々と協働することに重点をおいた内容になっていること。 2 [B 衣食住の生活]においては、小学校での「ゆでる、いためる」に加え、「煮る、焼く、蒸す等」の調理方法を扱い、基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得できるような学習活動に重点を置いた内容になっていること。また、和食や和服など、日本の伝統的な生活についても扱い、日本の生活文化を継承することの大切さに気付くことができる内容になっていること。 3 [C 消費生活・環境]においては、計画的な金銭管理、消費者被害への対応に関する内容を新設するとともに、他の内容と関連を図り、消費生活や環境に配慮したライフスタイルの確立の基礎となる内容になっていること。 	

<外国語（英語）>

観	点
	<p>1 小学校における外国語活動及び外国語ではぐくまれた素地及び基礎の上に、外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通して、簡単な情報や考えなどを理解したり表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を育成することに配慮された内容になっていること。</p> <p>2 実際に英語を使用して互いの考えや気持ちを伝え合うなどの活動を行うとともに、それを支える英語の特徴やきまりに関する事項について理解したり練習したりする活動を行うことができる内容になっていること。</p> <p>3 実際に英語を使用して互いの考えや気持ちを伝え合うなどの活動においては、具体的な目的や場面、状況等に合った適切な表現を自ら考えて言語活動ができる内容になっていること。</p> <p>4 幅広い言語活動ができるように、言語の使用場面や言語の働きなどを考慮した語彙の充実が図られる内容になっていること。</p> <p>5 教材は、英語を使用している人々を中心とする世界の人々や日本人の日常生活、風俗習慣、物語、地理、歴史、伝統文化、自然科学などに関するものの中から、生徒の発達段階や興味・関心に即して適切な題材を効果的に取り上げるものとし、次の観点に配慮がされた内容になっていること。</p> <p>ア 多様な考え方に対する理解を深めさせ、公正な判断力を養い豊かな心情を育てるのに役立つこと。</p> <p>イ 我が国の文化や、英語の背景にある文化に対する関心を深め、理解を深めようとする態度を養うのに役立つこと。</p> <p>ウ 広い視野から国際理解を深め、国際社会と向き合うことが求められている我が国の一員としての自覚を高めるとともに、国際協調の精神を養うのに役立つこと。</p>

<道徳科>

観	点
1	道徳性を養うため、道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を広い視野から多面的・多角的に考え、人間としての生き方について考えを深めることができる内容になっていること。
2	各教科等で行う道徳教育を補ったり、深めたり、捉え直したり発展させたりすることができる内容になっていること。
3	学んだ道徳的価値に照らして自分の生活や考えを振り返り、自らの成長を実感したり、これからの課題や目標を見付けたりすることができるような内容になっていること。
4	道徳的価値について自分との関わりで考え、感じたことをまとめ、発表し合ったり、討論などにより考え方、感じ方の異なる人の考えに接し、協働的に議論したりできる内容になっていること。
5	生きる上で出会う様々な道徳上の問題や課題を多面的・多角的に考え、主体的に判断し実行し、よりよく生きていくための資質・能力を養う学習ができる内容になっていること。
6	体験的行為や活動を通じて学んだ内容から道徳的価値の意義などについて考えを深めることができるような内容になっていること。
7	身近な社会的課題を自分との関係において考え、それらの解決に向けて取り組もうとする意欲と態度を育成することができるような内容であること。その際、多様な見方や考え方のできる事柄について、特定の見方や考え方に偏った指導を行うことのない内容になっていること。
8	生命の尊重、人格の尊重、基本的人権の尊重、思いやりの心などの根底を貫く国境や文化なども超えた普遍的な精神である人間尊重の精神にかなうものであって、悩みや葛藤等の心の揺れ、人間関係の理解等の課題も含め、深く考えることができ、人間としてよりよく生きる喜びや勇気を与えられる内容になっていること。

令和7年度使用県立中学校及び県立中等教育学校（前期課程） 教科用図書採択について

1 採択方針

令和7年度使用県立中学校及び県立中等教育学校（前期課程）教科用図書の採択は、文部科学大臣の作成する教科書目録に登載された教科用図書等の中から下記の基準に基づいて行うものとする。

記

- (1) 教育基本法（平成18年法律第120号）に定める教育の目的及び目標並びに学校教育法（昭和22年法律第26号）に定める義務教育の目標及び学校の目的を有効かつ適切に踏まえたもの
- (2) 学習指導要領の定める目標及び内容に即し、適切に教材を構成したもの
- (3) 地域の実態を考慮し、生徒の発達の段階に即し、かつ、指導に際して適切なもの

2 留意事項

- (1) 採択に当たっては、別に定める「令和7年度使用中学校教科用図書選定資料」等を参考に十分な調査研究を行うとともに、義務教育諸学校教科用図書検定基準（平成29年文部科学省告示第105号）の趣旨にも留意して、公正かつ適正な採択を行うこと。
- (2) 中高一貫教育校の目的及び理念並びに各県立中学校及び中等教育学校の設置の趣旨、教育目標及び教育内容等を総合的に考慮し、最も有効な教科書を採択すること。
- (3) 県教育委員会の責任のもと、専門的な教科書研究の充実を図るとともに、その成果が的確に反映される適切な採択手続等の構築を図ること。
- (4) 教科書採択に保護者等の意見がよりよく反映されるよう工夫するとともに、採択結果等の周知・公表を行うなど、開かれた採択を推進すること。

令和7年度使用
学校教育法附則第9条に規定する教科用図書選定資料

1 採択基本方針

特別支援学校の小学部及び中学部並びに特別支援学級で使用する教科用図書については、特に学校教育法附則第9条に規定する教科用図書（以下「一般図書」という。）の採択に係る指針が必要であることから、以下を基本方針とする。

(1) 採択の基本

特別支援学校の小学部及び中学部並びに特別支援学級で使用する一般図書の採択については、下学年用の文部科学省検定済教科書（以下「検定済教科書」という。）又は文部科学省著作教科書（以下「著作教科書」という。）の採択を考慮した上で実施すること。

(2) 一般図書の採択

一般図書の採択に当たっては、検定済教科書又は著作教科書に代わるものとして採択するものであることから、教科の主たる教材として教育目標の達成上、適切な図書を採択すること。

下学年用の検定済教科書又は著作教科書の採択を十分に考慮した上で、次の場合は一般図書を採択するものとする。

ア 特別支援学校の小学部又は中学部において、検定済教科書又は著作教科書がない場合（学校教育法施行規則第135条第2項（第89条を準用））

イ 重複障がい等を有する児童生徒への教育又は訪問による教育を行うに当たり特別の教育課程を編成する特別支援学校の小学部又は中学部において、検定済教科書又は著作教科書を使用することが適当でない場合（同規則第131条第2項）

ウ 特別の教育課程を編成する小学校、中学校若しくは義務教育学校又は中等教育学校の前期課程の特別支援学級において、検定済教科書を使用することが適当でない場合（同規則第139条）

2 選定に当たっての調査研究の全体的観点

教科用図書は、「教育課程の構成に応じて組織排列された教科の主たる教材」として、学校において使用しなければならないものである。

また、学校の教育課程は、学習指導要領を基準とすることとされている。

したがって、一般図書の選定に当たっては、教育基本法や学校教育法が示す教育の目的や目標、学習指導要領の趣旨を踏まえ、公正かつ適切に行うこととする。

(1) 学習指導要領の基本的なねらい

教育基本法及び学校教育法の規定に則り、特別支援学校小学部・中学部学習指導要領（平成29年文部科学省告示第73号）は、次のアからエを、小学校学習指導要領（平成29年文部科学省告示第63号）及び中学校学習指導要領（平成29年文部科学省告示第64号）は、次のアからウを基本的なねらいとしている。

ア 基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得させ、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力等を育むとともに、主体的に学習に取り組む態度を養い、個性を生かし多様な人々との協働を促す教育の充実に努めること。

イ 道徳教育や体験活動、多様な表現や鑑賞の活動等を通して、豊かな心や創造性の涵養を目指した教育の充実に努めること。

ウ 学校における体育・健康に関する指導を、児童又は生徒の発達の段階を考慮して、学校の教育活動全体を通じて適切に行うことにより、健康で安全な生活と豊かなスポーツライフの実現を目指した教育の充実に努めること。

エ 学校における自立活動の指導は、障がいによる学習上又は生活上の困難を改善・克服し、自立し社会参加する資質を養うため、自立活動の時間はもとより、学校の教育活動全体を通じて適切に行うものとする。

(2) 選定の基本的観点

ア 話題や題材の選択が適切なこと、また、学習内容を理解するのに適切なこと、更に全体として調和していること

イ 特定の事柄を強調し過ぎていないこと、また、一面的な見解を取り上げていないこと

ウ 特定の営利企業などの宣伝や非難になるものでないこと

エ 特定の個人や団体などの活動に対する援助や助長となるものでないこと

オ 掲載写真や挿絵などは信頼性のある適切なものであること

カ 全体として系統的、発展的に構成されていること

キ 内容に誤りや不正確がないこと、また、相互に矛盾していないこと

ク 客観的に明白な誤記、誤植、脱字がないこと

ケ 児童生徒が誤解するおそれのある表現がないこと

コ 漢字・仮名遣いなどの表記が適切であり、不統一がないこと

3 各学部・教科共通の選定の観点

(1) 内容に関する配慮事項

- ア 児童生徒の障がいの種類・程度、能力・特性に最もふさわしい内容（文字、表現、挿絵、取り扱う題材等）のものであること
- イ 「個別の指導計画」に基づく指導及び評価等に資することができるものであること
- ウ 内容が精選され、可能な限り体系的に編集されたものであり、基礎的な事項が適切に習得されるように配慮されているものであること
- エ 各教科等相互の関連が図られるとともに、具体的な内容が取り上げられるように配慮されているものであること
- オ 可能な限り学習の見通しを立てたり、学習したことを振り返ったりする活動が行えるよう配慮されているものであること
- カ 進路指導等との関連が図られ、将来の社会的自立を図るために必要な事項が適切に習得されるよう配慮されているものであること
- キ 特定の題材又は一部の分野しか取り扱っていない参考書、図鑑類、問題集等は適切でないこと
- ク 上学年で使用することとなる図書との関連性を考慮するとともに、採択する図書の間の一貫性にも配慮すること
- ケ 情報端末機器、ビデオテープ、CD、ジグソーパズル型などの図書としての体裁をなしていないものは適切でないこと

(2) 分量

全体の分量は、児童生徒の障がいの種類・程度及び授業時数からみて適切であること

(3) 使用上の便宜

分冊本は採択しないこと、また、高額なものに偏らないこと

(4) 印刷、製本等

印刷が鮮明であり、文字の大きさ、字体、行間、製本の様式、材料などが児童生徒の障がいの種類・程度からみて適切であること

発行者別概要説明書

種 目 （ 国 語 全 4 者 ）

発行者名	東京書籍
<p>「日本語探索」では、キャラクターが生徒目線の問いかけや会話を通じて問題提示をしており、馴染みやすく分かりやすい。2、3年生「文法解説」における「用言活用表」「助詞一覧表」等は1ページにまとまっており、見やすい。単元末の「言葉の力」の図解により、読解の要点を捉えることができる。「広がる言葉」は語彙を増やすことにつながる。読み物教材は、学年に対して難易度が高い。「目標」が「てびき」に記載されているが、教材にはないため使いにくい。</p>	

発行者名	三省堂
<p>巻末の「資料編」は、便覧の要素を感じるほど充実している。「学びのみちしるべ」により、主体的な学びにつなげることができる。「思考の方法」一覧で示されているチャートと使い方は、わかりやすく、汎用性が高い。「読み方を学ぼう」が分かりやすく、「読むこと」の学習を苦手とする生徒の手助けになる。領域別教材一覧では、学習指導要領との関連が分かりやすく記載されているが、一覧性がないので、全体としてやや見づらい。巻末折り込みのページは、縮小率が高いため文字が見にくい。</p>	

発行者名	教育出版
<p>学習した内容が、実際の生活の中で生かすことができるように配慮されている。3年間を見通すような内容のページや資料がない。各学年とも全体の分量がやや多い。「学びナビ」が文章中心で説明されているため、読み取りが苦手な生徒にとっては難解である。「話すこと・聞くこと」の「学習の進め方」は説明が簡素であるため、主体的な学びにつながりにくい。</p>	

発行者名	光村図書出版
<p>「読むこと」の教材は、各学年の発達の段階に応じた選定がなされている。「学びへの扉」と「学びのカギ」が見開きでまとめられており、生徒がゴールを意識した上で、自主的に学習することにつながる。読むことについては、「説明→報告→論説」と学年ごとに内容が発展している。巻末の「資料編」は汎用性があり、他教科の学習でも活用できる内容になっている。巻末の「国語の力試し」では、身に付けた力を確認することができる。</p>	

発行者別概要説明書

種 目 （ 書 写 全 4 者 ）

発行者名	東京書籍
<p>文字を正しく整えて速く書くためのポイントが「書写のかぎ」として明示されているため、大事なポイントがおさえやすくなっている。QRコードともリンクした書写テストが、学年ごとに位置付けられており、生徒が自ら学んだことを確認し、理解を深めることができる。「生活に広げよう」や「書写ブック」の内容が充実しており、実生活と結び付けて考え、生かすことができるようになっている。教材によっては、場面設定が生徒の実態と合わない部分もあり、やや活用しにくい。</p>	

発行者名	三省堂
<p>「書いて身につけよう」では、毛筆で学んだことを意識しながら、硬筆で繰り返し練習できるようになっている。硬筆の最初の練習欄には、補助線があり、段階的に補助線なしで練習できるようになっている。日常生活の場面を想定しながら、目的に応じて書体を選択し、例文を見ながら実際に書いてみるなど、個別最適な学びに対応した活動が設定されている。第3学年の分量や説明が少なく、物足りなさを感じる。</p>	

発行者名	教育出版
<p>「学習の進め方」で手順が示されており、流れが明確で分かりやすい。特に、「話し合い活動をおとした学び方」では、話し合いのポイントや書写用語などが挙げられており、協働的な学びの場面で生かすことができるようになっている。他教科との関連が意識されており、習得した書写の力を各教科の学習や日常生活に生かすことができるようになっている。「生かそう」の例文を見ながら硬筆で書くところでは、行間の手本がないため、生徒の実態に照らすとやや難しい。</p>	

発行者名	光村図書出版
<p>行書を書く時のポイントを「行書スイッチ」として示し、動画でも詳しく解説しているため、行書の特徴をしっかりと習得できる。「考えよう」では、楷書と行書のお手本が並べられており、生徒が比較しながら、それぞれの特徴を主体的に考えることができるようになっている。「書写ブック」がついており、毛筆で学習したことを硬筆で繰り返し練習することができ、文字を正しく整えて速く書く力を高めることができる。硬筆については、別冊に書き込みながら定着を図ったり、字形の変容を振り返ったりできるようになっているが、季節のしおりだけは教科書に直接なぞり書きをするようになっており、使いづらい。</p>	

種 目 （ 地 理 全 4 者 ）

発行者名	東京書籍
<p>単元全体を通じた探究課題が設定されているため、生徒の興味・関心を生かした主体的な追究につながりやすい。また、見開きページの右下「トライ」や、単元末の「みんなでチャレンジ」を活用することで、言語活動を充実させることができる。「世界の諸地域」において、気候や地形等の自然環境についての取り扱いが不足しているため、自然環境と産業の因果関係についての探究がしづらい面がある。</p>	

発行者名	教育出版
<p>「地域調査の方法を学ぼう」や「日本の特色と地域区分」などにおいて防災・減災に関する(1)内容が充実している。地理に関する情報を調べまとめる地理的技能を身に付けられる内容になっており、各ページのQRコードから動画視聴が可能のため、生徒の学びを確かにするための補足資料として活用できる。「世界の人々の生活と環境」において、それぞれの気候における生活の工夫に関する記述や資料が乏しく、自然環境と人々の生活の関連についての思考が深まりにくい。</p>	

発行者名	帝国書院
<p>地理的な見方・考え方を働かせ、課題を追究できる内容になっており、さらに、小学校の学習や他分野との関連が示され、各学年相互間の関連を図り、系統的・発展的な指導ができるように配慮されている。現状の課題を捉え、その解決を考えて話し合うなど思考を深める活動を促す工夫がされている。各地方の学習の振り返り後に設けられている「未来へ向けて」では、各地方の特色となる地理的事象をSDGsと関連させて探究できるようになっている。「世界の諸地域」の特設ページは分量が少なく、自主的・自発的な学習活動を促しにくい。</p>	

発行者名	日本文教出版
<p>「地域調査の手法」において、地形図、特にGIS（地理情報システム）の活用についての内容が充実している。「世界の諸地域」と「日本の諸地域」において、大観部分（自然環境を含む）のあとに「節の問い」を設定する部分があり、学習の見通しを立てやすい。学習課題を設定するページでは、多様な方法が提示されているが、提示されている思考ツールによっては視点の整理がしにくいことが考えられる。</p>	

種 目 （ 歴 史 全 9 者 ）

発行者名	東京書籍
<p>各単元末のまとめのページでは、課題解決に応じた「思考ツール」が用意されており、多面的・多角的に考察し、伝え合うといった言語活動の充実を図ることができる。見開きのページに縦に時代の物差しがついており、何時代を学習しているのかがわかりやすい。「みんなでチャレンジ」では、個人活動や話し合い活動をする上での活動例が挙げてあったり、思考の視点が明記してあったりと、対話的に学びを深めることができる。「もっと知りたい」というトピックスに掲載されている学習課題（「調べてみよう」）は、発展的な要素が強く、生徒によっては負担に感じることが考えられる。身近な地域の学習について、本書には九州（福岡）に関する事例紹介が非常に少ない。</p>	

発行者名	教育出版
<p>資料活用能力を高める手立てとしての歴史の技、「THINK」の思考を深める問い等のコラムが充実している。また、それらの資料は、大きく見やすく工夫されている。「歴史を探ろう」では、一般市民の生活や女性や子どもに焦点を当てたもの、文化財から考察するものなど、さまざまな視点で時代の特色に迫ることができる。時代スケールが必ず各ページのタイトル上にあり、特に世界史の際は日本との比較がしやすい。「不戦の誓い」「欲しがりません。勝つまでは」などのタイトルが歴史的事象のイメージを持たせるため、わかりやすい反面、一面的に事象を捉える恐れがある。単元末のまとめは、基本的な知識の確認しやすいが、生徒の思考を促す思考ツールや思考を深めるための設問、視点等の手立てが少ない。</p>	

発行者名	帝国書院
<p>導入の資料、思考を深める資料、本文の根拠となる資料等が、豊富に掲載されているため、教科書の資料だけで十分に多面的・多角的に課題を追究することができる。「地域史」や「歴史を探ろう」では身近な地域の歴史や一般の人々の生活などが紹介されていて、生徒の興味関心を引きやすい。巻末の「歴史の舞台を訪ねよう」では、地図帳との関連も図りやすく、歴史の授業だけでなく地理の授業でも関連付け考察することができる。章末のまとめで「これからの社会を構想しよう」という学習課題があり、過去の事例と現在の関連性を考えたり、SDGsの視点から過去の事象を検討したりすることができ、生徒に多面的・多角的な考察を促し、言語活動を充実させることができる。単元末では、知識習得を確認後、「タイムトラベル」を活用した振り返り、問いの考察、時代の考察、「これからの時代を考察しよう」など活動が若干多い。</p>	

発行者名	山川出版
<p>中学校での学習から高校への学習への接続に配慮されており、高校段階での学習内容を深化させるための基礎的・基本的な内容を学ぶことができる。「地域からのアプローチ」や「歴史へのアプローチ」は、歴史的な事象が豊富な資料とともに紹介されており、現代まで受け継がれる歴史や文化の意義を考えさせることができる。歴史的な見方・考え方を働かせるための視点などは他者に比べて少なく、見方・考え方を働かせることが難しい。章末のまとめは、違いを比較しやすいように発問が工夫されているが、「学習内容の整理」に留まっており、各時代の特色を自分の言葉で表現する問いは設定されていない。各ページに略年表が示されておらず、生徒がどの時代を学習しているのかがわかりにくい。</p>	

発行者名	日本文教出版
<p>章の冒頭で学習の見通しをもたせ、二次元コードからワークシートに進むことができるため、探究的な学習、課題解決的な学習につなぐことができる。女性史、SDGsの視点、防災、地域史等コラムや発展的な学習のテーマとしてバランスよく配置しており、生徒が人権や防災、環境、地域学習など広い視点を持ち歴史学習に取り組むことができる。各編のまとめでは、①既習事項の確認「知識」、②時代の特色をつかむ「思考・判断・表現」、③学習後の気づき「主体的に学習に取り組む態度」と、段階を追って学習を整理することができる。公害克服の歴史においては、北九州市の歴史を掲載しており、本市のシビックプライドの醸成にも役立つ。生徒役のコメントが吹き出しで用意されているが、生徒に考えさせたい内容や着眼点を記載しているため、学習が特定の方向に誘導されてしまう。</p>	

発行者名	自由社
<p>「人物クローズアップ」は小学校で学習した人物を活用して、効果的に歴史学習に興味をもてるよう配慮されている。グラフや資料が大きく記載されており、見やすい。資料を活用した学習を展開することで、生徒の思考を深めることができる。本文で使われる語句に難しいものが散見され、生徒の理解を図りにくい部分がある。他者には取り上げられていない歴史的な事象が取り上げられており、生徒の理解を図ることが難しい面がある。歴史の見方・考え方を働かせるための視点の記述がなく、生徒がこれらの視点を意識して思考することができない。</p>	

発行者名	育鵬社
<p>歴史を動かした人物を紹介した「人物クローズアップ」、歴史的な事象に焦点を絞って取り上げる「歴史ズームイン」や「このころ世界は」など、豊富なコラムで、生徒の興味関心を引き付け、自主的・自発的な学習を促している。章の冒頭は「鳥の目」「虫の目」の両方が用意され、歴史の捉え方のポイントを分かりやすく示している。章のはじめに時代の特色をすでに定義してしまっている記述があるため、生徒の思考が深まりにくい箇所がある。生徒の思考を促すものや、話し合い活動等の資料が少なく、また、各章末の問いに対して歴史の見方・考え方をどのように働かせて学習課題に迫るとよいのかが分かりにくい。節や1時間単位の「学習課題」と「学習のまとめ」で示されている問いに関連性があまり見られず、課題解決が図られないまま終わってしまう。身近な地域の歴史から、歴史的な事象を捉えさせる地域史の取扱いが少ない。</p>	

発行者名	学び舎
<p>学習課題の設定や課題意識の醸成や内容の定着の工夫を図るために、「章の扉」、「章をふりかえる」、「学習のまとめ」などが設けられている。「歴史を体験する」というコラムでは、実際の実験や1つの資料を深く読み取る活動が紹介されており、生徒の興味を引きやすい。歴史的な見方・考え方に関する記述があるが、「カードにまとめてみよう」、「年表に書き込んでみよう」、「調べてみよう」といった作業のみで、具体的な活用場面が分かりにくい。章末の学習のまとめでは、グループ活動が設定されているが、学習内容のまとめに留まるような問いが多く、多面的・多角的に思考させる課題にはなっていない見開き1ページに、時代のスケールが示されていないため、本時がどこの時代の学習であるのか、また今後どのように推移していくのかが分かりにくい。</p>	

発行者名	令和書籍
<p>各章のはじめに「政治」「文化」「外交」「産業」ごとに問いが設定されており、「どこに視点を置いて学習していくのか」が理解しやすい。注釈や資料の内容が多岐にわたっており、詳しい歴史を学ぶことができる。全体的に歴史的な事象に関する記述のみで、生徒の思考等を促す発問や資料があまり見られないため、単元を通して歴史の大きな流れを捉えたり、各時代の特色を捉えたりすることが難しい。「考えよう」や「ディベートをしてみよう」などでは、生徒に歴史的な認識を深めさせる手立てになるが、統計資料など客観的なデータが少なく、価値判断がしにくい。原始から現代までをひとまとめにした年表がないため、大枠で歴史の流れを捉えることが難しい。</p>	

種 目 (公 民 全 6 者)

発行者名	東京書籍
<p>発展的内容が単元の間に関けられており、特に「18歳へのステップ」のページに最近の事象(主権者教育等)が入っており、生徒が興味・関心を高めやすい内容である。QRコードからデジタルコンテンツにアクセスでき、豊富なツールを用いて、生徒の主体的な学習の深まりを補助できるように配慮され、生徒が作成した探究課題を、画像として残すことができるようになっている。本文に対して、「もっと解説」等の探究課題等が多く、基礎的な内容と発展的な内容との差が分かりづらい。また、SDGsに関する記述はあるが、各単元において本文と関連付ける表記がない。</p>	

発行者名	教育出版
<p>節を貫く問いが掲載されており、生徒が学習課題を確認しやすく、基礎的な内容と、コラム等の発展的な内容が明確に区別されている。また、SDGs 関連のページに具体的な項目が表記されており、全体の学習を通して取り上げることができる。日本国憲法の平和主義や外交問題について、さまざまな立場からの意見が取り上げられている。デジタルコンテンツが限られており、生徒の探究活動を促す資料が少ない。また、今日的な社会課題である、性の多様性に関する内容が少ない。</p>	

発行者名	帝国書院
<p>各単元にQRコードが記載され、デジタルコンテンツにアクセスしやすく、統計資料やワークシート等が充実している。特に、「アクティブ公民」と関連させたリンク集が充実していて、生徒の主体的な学習をサポートできる。章のはじめの「学習の前に」や、それぞれのページ内の「アクティブ公民」や「アクティブラーニング」の特集の内容が、考察・議論しやすく使いやすい。見開き1ページの文章量が多い。「子どもの人権を守る制度」については、性被害など、子どもたちに直接かわる社会問題が取り上げられており、指導の際に配慮が必要である。</p>	

発行者名	日本文教出版
<p>各章の「学習のはじめに」を活用することで、章のめあてを考えやすい構成になっており、「アクティブティ」や「チャレンジ公民」は、生徒に考えさせやすい。単元の学習終了後、「まとめとふり返し」の設定があり、基礎的な内容の確認と発展的な内容の振り返りを行うことで、深い学びにつながる。デジタルコンテンツの小テストが活用しやすく、毎時間の理解度確認にも使用できる。見開きページの中に、文字による情報量が多い。日本の安全保障の記述については、取り扱いに十分配慮する必要がある。</p>	

発行者名	自由社
<p>「アクティブに深めよう」は、直接記入することができ、学びを深める内容である。「ここがポイント！」で、本文の内容を簡潔にまとめており、資料等が多すぎず、見開きページの中に、色味が抑えてあって見やすく、特別支援教育の観点からは使いやすい。「ミニ知識」や「もっと知りたい」などの発展的な内容が充実しているが、語句の解説が多く、数字で客観的に分析する資料が少ないため思考を促しづらい。全体を通して、古事記、日本書紀や、天皇制に関する内容の記述が多く、日本国憲法の平和主義や国際問題に比べ、基本的人権に関する内容が少ない。</p>	

発行者名	育鵬社
<p>節ごとの学習課題が関連するページにすべて記載されており、見通しをもって学習を行うことができ、「やってみよう」では、学習内容を深められるように配慮している。資料に外国との比較が多く取り入れられており、国際的な関わりや個人・社会との関わりについて考える機会を提示できる内容となっている。デジタルコンテンツは、「NHK for school」とリンク集に限られており、多面的な考えを促しづらい。補足的な内容が多く、全体を通して情報量や文字が多い。</p>	

発行者別概要説明書

種 目 （ 地 図 全 2 者 ）

発行者名	東京書籍
<p>統計資料が豊富であり、人口構成や産業別割合がグラフになっていて視覚的に分かりやすい。全ページに地図を深く読み取るためのヒントである「ビーズ・アイ」が設けられ、生徒の自主的な学習を促す工夫がされている。標高を表す凡例が細分化されているが、地図上で見ると分かりにくい。P48 掲載の統計5 アフリカ諸国の独立と紛争（2）所得格差の資料について、この資料では総額が分からず、金額の比較が難しいことから、アフリカの所得格差を理解するのに分かりづらい。</p>	

発行者名	帝国書院
<p>歴史的分野、公民的分野の学習とも連携した基礎的な情報が精選して掲載されており、それぞれの分野での活用を図りやすい。地図の読図や景観写真の読み取りなどの情報量が精選されており、地理的技能を養うのに適している。「防災」「環境」などテーマをもたせた主題図が掲載されており、持続可能な社会について考えることができるように構成されている。各ページに質問が掲載されているが、知識の定着を図る問いが多い。</p>	

種 目 （ 数 学 全 7 者 ）

発行者名	東京書籍
<p>教科書を折ったり、直接図を書き込んだりできるようになっているなど、教科書に直接書き込める部分が多い。QRコンテンツでヒントや途中式を1行ごとに見ることができ、個に応じた学習を行うことができる。また、フラッシュカードでは、間違えた問題のみ再チャレンジできるよう配慮されている。「学びをふり返ろう」では、生徒に考えさせたいものが記載されているが、その答えまで記載されている。印刷等は鮮明であるが、吹き出しが囲まれていないので、課題と説明文の区別がつきにくい。</p>	

発行者名	大日本図書
<p>巻末に、学習の状況に応じて取り組むことのできる部分があり、日常との関連や総合問題、課題学習など、個に応じて取り組めるようになっている。「学びにプラス」は、自ら学習した内容を振り返り、探求する活動に利用できる。QRコンテンツが他社と比べて少なく、問題に対しての手立てやヒントが不十分なため、苦手な生徒が進んで学習に取り組むことができない。問題において文字や図が小さく、問題間の余白も狭いため、教科書に書きこみにくい。</p>	

発行者名	学校図書
<p>実生活に即した問題や説明等の記述のバランスがよく、生徒にとって学習しやすい構成となっている。対話式の問いがあり、全国学調や高校入試でも問われるような問題になっていることで、思考力を育成することができるよう配慮されている。使用されている色が薄く、配慮をした上で单元ごとにオレンジと緑の配色を変えているが、統一感がなく指導しづらい。各章において解説が多く、問題解決的な学習につながりづらい構成になっている。</p>	

発行者名	教育出版
<p>新しい章を学習する前に、章で使用する既習事項を振り返る問題が設定されている。学習内容を細かく分け、それぞれに復習問題が設定されており、基礎的・基本的な内容の定着が図れる。日常生活と関連している題材や話し合い活動につながる題材が少ない。QRコンテンツが他社と比べて少なく、問題に対しての手立てやヒントが不十分なため、苦手な生徒にとっては、主体的に学習に取り組むことが難しい。</p>	

発行者名	啓林館
<p>章の導入や章の利用の場面では、日常生活の中の疑問を数学で解決する方法を考える構成になっている。SDGsや他教科と関連が書かれた部分があり、日常生活とのかかわりや教科横断的な視点での授業づくりを行うことができる。章末問題が基本と応用に分かれていて見開き1ページずつあり問題数も豊富である。QRコンテンツが充実しており、自分のペースや理解度に応じて、繰り返し解くことができる。また、問題の解き方を解説した動画も見ることができ、家庭学習にも使用できるようになっている。</p>	

発行者名	数研出版
<p>会話文が多く、質問で終わるような形になっているため、生徒たちの対話を促すことができる内容になり、思考力・判断力・表現力を育成できるよう配慮されている。QRコンテンツが充実している。過去5年間の全国の入試問題（約4000問）を解くことができるようになっている。作図やグラフを描くスペースが十分にあり、教科書に直接描くことができる。各章の前に振り返りのページがあるが、解説が多く、問題解決的な学習につながりづらい構成になっている。</p>	

発行者名	日本文教出版
授業の話し合い活動で使用できる対話シートや学習した内容を確認、発展させることのできるふり返しシートが巻末についており、切り取って活用することができる。おおむね1時間の学習内容が「見開き1ページ」で示されており、指導しやすい構成となっている。写真や挿絵のイラストが少なく、日常生活との関連性が薄いため、活用しにくい。	

種 目 （ 理 科 全 5 者 ）

発行者名	東京書籍
<p>単元末に「社会とつながる科学」というコラムを配し、生徒に生活と理科とのつながりの意識を高めたり、キャリア教育に対して配慮したりしている。「問題発見」から内容が始まり、さらに、思考を深めるための「疑問」や実験の「構想」等、他の教科書会社と比較してもかなり細かく作りこまれている。QRコードを読み取ると目次に行き着くため、一斉指導の際には読み込みに時間がかかり、短い授業中での利用は難しいと考える。</p>	

発行者名	大日本図書
<p>教科書内に他教科の学習内容、小学校や高等学校での学習内容も示されており、学習の系統性を強く意識した構成となっている。より探究的な活動を促す構成になっていないため、授業においては、別途資料等の準備が必要である。QRコンテンツが、他社と比べて少なく、情報内容についても、現代社会に関する生成AIなどの最新の情報に更新されていないため、個別最適な学びや発展的な学びに資する情報としては適切でない。</p>	

発行者名	学校図書
<p>実験への導入が生徒の会話形式になって完成されており、生徒が学習場面で思考を自ら深めることができにくい構成になっている。各学年巻末の「読解力強化問題」や「思考をさらに深める」では、思考の過程を問う高校入試を意識した問題が掲載されており、個に応じて学びを深化させる上でよい。各ページにQRコードがあり、教科書の内容をすべて見ることができる。ルビ付けや多言語への変換、音声読み上げや色調反転などのUD機能も充実している。チャットボットによる生徒の多様な質問にも回答でき、練習問題も答えに応じて、自動採点解説を行い、個別最適な学びの実現に有効なものとなっている。</p>	

発行者名	教育出版
<p>「ハローサイエンス」というコラムで科学史や日常生活との関連事項、発展的な学習内容などについて取り扱っているが、記載が小さく印象が薄いため、生徒の科学への関心や学習の深まりにつながりにくい。カラーユニバーサルデザインに配慮し、どの色覚特性でも判別できるようにしている。強調する赤文字の色が淡く、一般的には一目で強調点を捉えづらいと思われる。探究の進め方フローチャートが折り込まれ、どのページからも学習の流れを確かめることができる。</p>	

発行者名	啓林館
<p>「みんなで探Qクラブ」という実験を主体とした発展的学習が各単元の最後にあり、身近なものから科学的なテーマを選んだ探究学習が可能になっている。各単元末の「学習のまとめ」でQRコードを利用して、練習問題で重要語句を4択で選択するなどして、単元の学習内容が復習できる構成になっている。各単元末の練習問題が充実しており、動画で出題される問題もあるため、生徒の個別最適な学びに活用したり、試験のCBT化へ対応したりできる。問題解決に向け、科学的に探究する流れがどの分野においても踏襲されており、また、各分野間（各項目間）の関連が考慮されている。</p>	

発行者別概要説明書

種 目 （ 音楽・一般 全 2 者 ）

発行者名	教育出版
<p>創作において、専門的な内容の記載が多く、創作が苦手な生徒にとっては難しい内容である。鑑賞教材が組曲等の場合には、組曲全ての構成が示されており、全体における鑑賞曲の位置づけや特徴を把握することができるように工夫されている。QRコードの掲載は他社に比べて少なく、歌唱教材は範唱のみのものが多い。また、内容も薄く、個別学習を進めるには適していない。民謡の特徴や民謡の種類の説明が多く、指導に当たっては焦点化しづらい。技能の習得においては、段階的に、図や解説で丁寧に示されている。音の三要素のページは教科横断的な内容であり、生徒の興味関心につながる。</p>	

発行者名	教育芸術社
<p>QRコードがほとんどの教材についており、歌唱教材ではQRコードでカラピアノや旋律の音源、創作ツールなど充実している。1年で英語の曲がないため、系統的・教科横断的な学習がしづらい。「郷土に伝わる民謡を調べよう」では、課題意識を生む「問いかけ」があり、仕事歌等の特徴を自分で理解する仕組みになっているため、探求的な深い学びにつながる。全体的に楽譜の歌詞や解説のフォントが細くて見づらい。著作権のページが1と2・3下に掲載されているため、発達の段階に応じた詳しい学習を行うことができる。</p>	

発行者別概要説明書

種 目 （ 音楽・器楽 全 2 者 ）

発行者名	教育出版
<p>リコーダーの各ページで、ソプラノとアルトが同時に掲載されており、生徒自身が主体的に練習に取り組むことができるようになっている。QRコードは模範演奏が流れるだけで、ワンポイントアドバイスや解説がないため、生徒が自主的に取り組むことが困難である。技能の習得においては、段階的に、図や解説で丁寧に示されている。巻末のリコーダー運指表とその裏にあるギター&キーボードコード表は折り込みページなので、耐久性については懸念される。ギターのコード (P36) の写真は、自分が楽器を構えた時と逆になっており、生徒への配慮に欠ける。写真ではどの弦を押さえているかが分かりにくい。</p>	

発行者名	教育芸術社
<p>各楽器の項目では、我が国や諸外国に伝わる音楽や楽器について、実際に演奏されている写真とともに掲載されており、さまざまな音楽文化に触れることができるように工夫されている。各題材に音楽を形づくっている要素を重点ポイントとして、各ページに示されていることから、音楽的な見方・考え方を意識しながら系統的な指導がしやすい。デジタルコンテンツが充実しており、教師の技量にとらわれることなく、動画を参考にして生徒自身が主体的に演奏技術を高める手がかりとすることができる。音楽を通して、音楽文化と豊かにかかわることができるよう、幅広い内容で適切な教材が豊富である。ソプラノリコーダーに関する記載が少ない。</p>	

種 目 (美 術 全 3 者)

発行者名	開隆堂出版
<p>授業の導入から振り返りまでの思考の過程を意識した授業の展開が見渡せるよう、4ページ構成となっている。生徒にとって身近な現代の漫画家の作品と古典美術を比較する等、現代の美術と文化のつながりを実感的に理解できる工夫がなされている。原寸で鑑賞できる作品掲載が多く、一人一人が見方・考え方を働かせながら細かい表現まで見て取ることができ、鑑賞の視点が広がる。全ての紙面において光沢が抑えられており、画面反射がなく実物作品により近い色合いで見ることができ、折り込み型紙面で作品を提示しているが、効果的でない。</p>	

発行者名	光村図書出版
<p>「みんなの工夫」において生徒が制作に取り組む様子を段階的に学ぶことができる。3年間を通して必要とされる知識及び技能を支える内容は、1年別冊資料にまとめている。別冊資料に関連するページを参照できるように、教科書紙面上方右側にリンク先を示しており、生徒が主体的に調べることができ、探求的な学びにつなげることができる。生徒同士が話し合う活動の写真が多く掲載されているため、表現や鑑賞の場でも協働的な学びがイメージしやすい構成になっている。「日本の絵画を楽しむ五つのキーワード」では、和紙の風合いの紙を使用することで、素材の風合いや手触りを感じ取ることができる。</p>	

発行者名	日本文教出版
<p>「屏風、美のしかけ」では、実際に折り立てて鑑賞できる屏風作品が掲載されており、屏風の形状が注み出す効果等を実感的に理解できるような工夫がなされている。高精細印刷の浮世絵では、特色インクと高精細印刷技術で色味や細部の彫りの再現により、技の巧さを実感できる。全題材の主文に設定したQRコンテンツ「学びのはじめに」は、題材導入用の動画があり、生徒が自分事として意欲をもつことができる。データが重く、QRコンテンツアプリの動作に時間がかかり過ぎるものがある。作品の鑑賞活動においては、作品資料の掲載が少なく指導者の準備や補充が必要である。</p>	

発行者別概要説明書

種 目 （ 技 術 全 3 者 ）

発行者名	東京書籍
<p>「目標」「始めの活動」「学習課題」「まとめの活動」などが、全見開きの同じ位置に配置されており、生徒が問題解決の学習の流れを把握することができる。主体的な学びを促すQRコードのコンテンツが充実しており、技能や実験動画のリンク以外にも、思考ツールやワークシートを活用できたり、電気回路やリンク機構などをコンテンツ上で操作できたりする。ページによっては情報量が多く文字が小さいページがある。詳細に説明していることは評価できるが、生徒によっては内容の理解が難しいこともあるため、指導に当たっては配慮を要する。</p>	

発行者名	教育図書
<p>各章のはじめに安全で楽しく実習を行うための決まりごとを記載し、安全への意識を高めながら実習に取り組むことができる。問題解決の流れをコマ漫画で分かりやすく紹介しており、生徒が学習の流れをイメージしながら学ぶことができる。別冊「スキルアシスト」に基礎技能に関する内容がまとめられ、作業時に容易に閲覧できるが、3年間管理することを考えると紛失等のリスクが増える。</p>	

発行者名	開隆堂出版
<p>各内容項目における課題の設定では、問題を発見する際の身近な例が多く示されており、図もわかりやすい。また、課題を設定する流れが技術の見方・考え方を念頭に置いた記述となっている。学習の節目に振り返りシートが掲載されており、技術の見方・考え方を働かせながら問題解決した学習過程を振り返り、社会の発展と技術の学習につなげることができる。内容項目Cの回路図の学習では、例示されている回路図がやや複雑なため、生徒にとっては難しいと思われるため、配慮を要する。</p>	

発行者別概要説明書

種目（家庭全3者）

発行者名	東京書籍
<p>各題材で「考えてみよう」「やってみよう」等の主体的・対話的に取り組む活動が充実しており、生徒が活動を通して学習内容を理解できるようになっている。デジタルコンテンツからインターネット通販等のシミュレーションを行うことができ、課題解決学習として役立つ。学習のまとめの「3生活に生かそう」では、生徒一人一人の関心や課題に沿って「生活の課題と実践」へつなげることができるようになっている。「学習のまとめ」が終末にあるが、直接書き込むスペースが少ない。</p>	

発行者名	教育図書
<p>巻末の「生活の課題と実践」では、「住生活」と「家庭や地域との関わり」など、異なる領域合わせた事例を紹介し、地域社会との連携が図れるように工夫された内容になっている。「やってみよう」は4つのステップで構成されており、課題解決学習を進めやすくしている。「消費生活・環境」の領域で、計画的な金銭管理について記載されているが、具体的な方法は示されていない。「家族・家庭生活」で幼児とのふれ合い体験が3パターンしかなく不十分である。</p>	

発行者名	開隆堂出版
<p>巻末の「生活の課題と実践の進め方」では、課題解決に向けた取組として調査や実習など多様な方法を紹介し、生徒が課題に応じた取組を行えるように工夫されている。消費者の権利と責任について考える場面をフローチャートで表すことで、自分事として実感し、これからの生活に生きるように工夫されている。防災の視点として加工食品を活用したローリングストックを紹介し、社会生活への課題にも配慮している。多様な家族の参考例については、指導上、取扱いに配慮を要する。</p>	

発行者別概要説明書

種 目 （ 保健体育 全 4 者 ）

発行者名	東京書籍
<p>他教科との関連が示されており、横断的な学習が進めやすい。また、体育分野と保健分野の関連がマークで分かりやすく明記されており、関連付けながら学習できる工夫がある。応急手当の方法について、図説や写真はああるが、隣接していないので指導しにくい。紙面のユニバーサルデザインを意識し本文を左側、資料を右側に配置されているが、が内容のまとまりがとらえにくく、とても見にくい。</p>	

発行者名	大日本図書
<p>「つかもう」「やってみよう話し合ってみよう調べてみよう」「活用して深めよう」がわかりやすく配置してあり問題解決的な学び方を意識することができる。応急処置について多く取り上げていることや、熱中症の応急処置についても取り上げられていることがよい。発育急進期における運動の有用性について触れられておらず主体的な学びに結び付きにくい。グラフの色使い(緑赤)は、色覚特性のある生徒にとって、コントラストがきつい。</p>	

発行者名	大修館書店
<p>今日的な課題である、「がんとその予防について」の記述が充実している。デジタル教材が167点と充実している。なかでもWebワークシートで意見の共有による協働的な学びができたり、保体クイズで学習内容の確認ができたりするように工夫されている。「自然災害によるけがの防止」の自然災害や、生徒にとっての身近な「けがの処置の取り扱い」についての記載が少ない。</p>	

発行者名	Gakken
<p>二次元コードから参照できる動画コンテンツが充実しており、多面的、具体的に学ぶことができる。各章末に「探求しようよ」が配置され、学習内容を踏まえた問いかけにより、更に学びが深化発展できるようになっている。早期発見を含む、がん治療の主な治療法が記載されていることは、実際に使える知識として良い。基本構成が、ウォームアップ(課題の発見)→学習課題、本文と資料、エクササイズ(課題の解決)→学びを生かす(学びの活用)となっており、主体的な学びの好循環が期待でき、授業で使いやすい。</p>	

発行者別概要説明書

種目（英語全6者）

発行者名	東京書籍
<p>数単元（各学期）ごとに巻末の CAN-DO リストでどの程度目標に到達できたかが分かる。巻末の Unit Activity Plus には、単元を貫く問いについて、自分の考えを表現するために必要な語彙や英文を書くヒントが掲載されており、幅広い言語活動が展開できる。文法説明のページにおいても、話したり書いたりして、生徒が文法事項を活用して発信できる内容が配置されている。文法指導には適しているが、ストーリーの繋がりに欠ける面が感じられる。1 ページの掲載内容が多く、生徒によっては必要な情報に集中しにくい可能性もある。</p>	

発行者名	開隆堂出版
<p>単元の導入ページに、2コマの漫画形式でターゲット文法事項が掲載されており、見通しを持った学習や復習がしやすい。単元の到達度や各ページの学習目標の達成度を生徒に実感させる工夫があり、目標をもって学習しやすく、生徒の主体的な学びにつながりやすい。巻末のクイック Q&A はドリルとしては有効であるが、即興的なやり取りへの発展が難しい。1 単位時間の授業中に文法事項等の確認のため生徒がページを前後してめくらなければならない作りになっている。デジタルコンテンツの内容が本文と単語のみとなっており、バリエーションが少ない。</p>	

発行者名	三省堂
<p>小中接続のための単元で、言語活動に一つ一つ取り組みながらアルファベットや英文の書き方を教えていく流れとなっており、接続が円滑である。巻末資料が豊富で、本文ページには掲載されていない各パートの英文が全て読めるようになっている。各 Lesson 以外の言語活動等のページにも一貫して同じキャラクターが登場し、生徒は親しみをもてる。各パートにおけるスモールトークのヒントが少ない。Think about Yourself（各 Part での言語活動）は、コミュニケーションの目的・場面・状況の設定が不明確であるため、生徒が興味を示すのに十分でない。</p>	

発行者名	教育出版
<p>1 年生の始めについては各単元において、イラストとメインのセリフのみが掲載されており、小学校との円滑な接続に配慮されている。表紙裏に「中学卒業までの英語学習の目標」を書き込む欄があり、また、巻末の CAN-DO リストでは、自分が立てた目標の達成度について確認することができるため、主体的な学びにつながる。1 年生の教科書であっても、内容が多いため小さな文字になっているページがあり、英語に苦手感をもたせてしまう可能性がある。社会的な題材を豊富に扱っているが、展開が単調であり、ストーリー間の繋がりが薄い。各パートの言語活動の場面設定は教科書の内容通りで、生徒が話したいと感じる内容とは言い難い。</p>	

発行者名	光村図書出版
<p>3 年間を通して、主人公たちの日常を描いた場面が多く、ストーリー性が重視されているので、生徒たちは興味をもって読むことが出来る。二次元コードの内容が充実している。各キャラクターが基本文（文法）を説明するなど分かりやすく生徒にとって興味深い。会話文が多く、適切な場面設定がなされている。生きた英語を使わせながら、文法を身に付けていく作りになっている。Unit の Part ごとに、本文に加えて Extra Story という追加の動画が準備されており、次の展開を楽しみに主体的に発展的な学習にも進むことができる。主人公たちの日常を描いた場面が多く親しみやすい反面、社会的な話題や異文化理解に関する題材は少ない。</p>	

発行者名	啓林館
<p>話すことの言語活動では例文は絵、語彙が分かりやすく豊富に提示されており、ペアでの会話練習がうまく出来るように配慮されている。各単元で、聞いたことや読んだことについて話したり書いたりするための取り組みやすい質問が設定されている。1年生では、小中連携に関する内容が少なく、進級する際にも前年度の復習をする内容が少ない。多くの国について取り扱い、新たな発見が多い一方、単調な展開が続き、Unit 間の繋がりは薄い。文法説明のページに文字の量が多く、中学生にとって難易度が高く感じられる。</p>	

発行者別概要説明書

種目（道徳全7者）

発行者名	東京書籍
<p>いじめ問題のユニット、生命尊重のユニットなどの教材は、指導に最適な時期を考慮し、各学年同じ時期に配列し、系統性を図っていると同時に、コラム「Plus」を通して、問題解決的な学習や体験的な学習ができるようになっている。巻頭に「道徳科とは」「道徳科の授業はこんな時間に」が設定されているが、3学年同じ内容であり、段階を踏んだ教材が設定されておらず活用しづらい。</p>	

発行者名	教育出版
<p>「やってみよう」が各学年に設定されており、役割演技や日常の体験を想起して話し合う活動を通して学びを深めることができる。小学校から中学校、中学校から高校への接続を意識した教材が設定されており、系統的に学ばせることができる。学期ごとに設定されている「道徳科の学びを振り返ろう」は、感想などに留まった表現が見られ、道徳科の視点にたった振り返りを生徒が意識しづらい。</p>	

発行者名	光村図書出版
<p>リフレーミングやアンガーマネジメントなど特別活動との関連性を意識しているため、他教科や日常生活との関連をもたせながら、考えを深めさせることができる。付録としてイメージマップやPMIシート、スクールマップ、ピラミッドチャート、ベン図等の内容が充実しており、多面的多角的な見方、考え方を広げるために効果的である。学びの手立てが詳細であり、画一的な指導になる恐れがある。</p>	

発行者名	日本文教出版
<p>身近な教材を選定し、各テーマを学ぶ必然性が感じられる適切な時期に教材を配列している。いじめについては、自分たちの問題として主体的に考え議論できるよう、多様な教材やコラムをユニット化している。学習展開に即した焦点化された問いが示されており、道徳科の特質を生かした学習が展開しやすい。別冊ノートを併用することで自分の考えの記録の蓄積が容易となっており、自己の成長を振り返りやすい。主たる35教材の多くにコラムが収録されているため、時間配分の工夫が必要である。</p>	

発行者名	Gakken
<p>SDGs、多様性、キャリアのテーマのもと、内容項目が異なる複数の教材を連続して学ぶユニット学習教材を用意し、広い視野で社会を捉え、よりよく生きることについて多面的多角的に考えを深めることができる。特設ページ[クローズアップ]では関連情報などを扱い、教材を軸に多面的多角的に考える機会が設けられている。「メモ」欄は、どのように活用したらよいか分かりづらい。「考えよう」の発問例に、自己を見つめる発問が設けられていない教材がある。</p>	

発行者名	あかつき教育図書
<p>「考えを深める」では、道徳的な価値に照らし合わせて、さらなる思考や対話を促すことができるように発問が設定されている。「マイプラス」では、問題解決的な学習や体験的な学習が用意されているが数が少ない。「自分を見つめて考える」では、ねらいに向かって生徒が考えを深めづらい発問設定が見られる。巻頭の「自分を見つめ、考え、生きる」では、学び方や考えを深める過程などの説明が少ない。</p>	

発行者名	日本教科書
<p>ウェルビーイングカードの活用は、自分の思いや考えを表現したり他者と話し合ったりする手立てとなり、自己理解や他者理解相互理解を促すことが期待される。単純な登場人物の気持ちの理解や行動の予測に終始する問いもみられ、授業にあたっては、発問等を再構成する必要がある。内容項目順に教材が配列されているため、学校の実態をふまえた年間計画を作成する配慮が必要であり、教師の配慮が一定程度必要である。</p>	